

令和4年度小松市立松東みどり学園 学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導	いじめ・不登校の未然防止と早期発見	・職員会議ごとに児童生徒理解の時間を確保し、共通理解を図っている。また、職員間での日常的な報告連絡相談で、前期課程と後期課程の間でスムーズで密な情報交換を行っている。 ・教職員に対していじめに関する研修会（8/1）を実施し、事例検討を通して組織的な対応力を高めた。 ・不登校傾向の児童生徒には、時間外の登校や別室登校など柔軟な対応を実施しており、登校が難しい場合は保護者との連絡を密に行った。 ・2日連続で欠席が続く子どもはわずかであったが、人間関係で悩みを抱える子どもが複数おり、懇談や話し合いを行って丁寧に対応した。 ・SCや外部機関との連携を図り、児童生徒の心のケアにつなげていく	
	・いじめに対する積極的認知を行うために、職員会議で生徒指導主事が中心となって情報共有、共通理解を図る。 ・不登校の未然防止を図るために、生徒指導三機能を生かした魅力的な授業作りや、仲間を認め合うことのできる児童生徒会活動を展開する。 ・不登校傾向の児童生徒や欠席が2日連続で続く児童生徒へは、担任による定期的な家庭訪問を実施する。また、学期ごとに個人面談や友達アンケートを実施し早期発見に努める。		
特別支援教育	児童生徒理解を深め、特別支援教育の充実を図る	・毎月の児童生徒理解の会で情報共有を行い、組織的対応に努めた。また、職員間の日常的な報告連絡相談で、学年をまたいでスムーズで密な情報交換を行っている。 ・全学年の児童生徒について校内支援委員会を開催し、要支援の児童生徒の実態と特性について共通理解をするとともに、支援について協議した。 ・スクールカウンセラーの沢田先生を講師に教育相談の会を行い、児童の心のケアや保護者との連携について理解を深めることができた。	
	・児童生徒理解の会において、気になる子について共通理解するとともに支援について協議し、組織的な対応を行う。 ・校内委員会を定期的に行い、要支援児童生徒に対する効果的かつ早期の対応を検討する。また、関係諸機関との連携を密にし、より有効な支援のあり方を追求する。		
道徳教育	家庭と連携し、道徳教育の向上を図る	・年度当初に保護者参加型の授業の提案をし、4月の授業参観の際、8年生で実践した。その他の学年は2・3学期に取り組む予定である。 ・「家族愛」の教材で学習した後に、親子の手紙の取り組み、価値をさらに深めるようにした。 ・計画訪問の研究授業においては、事前に指導案検討や模擬授業を行い、授業づくりについて相談する機会を設けることができた。日々の授業実践のための相談の場を設定することが実現できていないため、2学期は低・中・高・後期課程で道徳の教材研究や発問の仕方などの相談の機会を3回設ける予定である。	
	・家庭と連携した道徳教育の推進を目指すために、全学年における保護者参加型の授業公開をする。 ・個々での教材研究・授業実践となっているため、教材研究に関する相談の機会や職員間の参観の場を設けるなど、授業力向上につながる校内の仕組みづくりを進めていく。昨年度取り組んだ「授業構想シート」も活用していく。		
キャリア教育	キャリアパスポートの活用によりキャリア教育を推進する	・キャリアパスポートを活用して、4月当初に立てためあてについて5月と7月に自己評価を行った。 ・7月のふりかえりでは、どの学年のキャリアパスポートにも、4つのめあてそれぞれについて成長を実感したり、2学期に向けて前向きな思いをもっている様子であった。 ・体験的活動や啓発的活動では、地域人材を招き授業を行った。 ・2学期も引き続きキャリアパスポートを活用していく。体育祭・文化祭は、「めあて→活動→ふりかえり→次に生かす」の流れを充実させることで、大いに成長を実感できる良い機会としたい。また、地域人材や卒業生を招き、効果的に活用することを継続していく。	
	・「めあて→活動→ふりかえり→次に生かす」の流れを定着させ、それぞれの学年の実態に応じて「キャリアパスポート」を活用しながら、自己の成長を見つめ、実感させていく。 ・各学期のめあてはフィッシュボーンを使って立てさせ、定期的にふり返し、できたところや心がけたことを意識させ、声をかける。 ・体験的活動や啓発的活動では、地域人材や卒業生を招き、効果的に活用する。		
保健健康教育	自分の健康や体を自分で守ろうとする意識を育む	・保健給食委員会では児童の発案で、万歩計を付け運動量を増やすことをねらいとした活動に取り組んだ。自分の活動量を知り、運動量を増やそうとする児童の意識を高めることができた。取り組みは3年生以上であったが、1、2年生にも波及し積極的に階段の上り下りをしたり体を動かした遊びをしたりする姿が見られた。 ・生活体育委員会では、アンケート結果を基に企画した「全校遊び」を通して全校で運動の楽しさを味わうことができた。 ・プロのダンス講師を招いての授業は子ども達が生き生きと楽しく活動する姿がどの学年でも見られた。各学年4時間という短時間であったが完成度が高く、達成感も味わえる充実した内容であった。体育の授業の他領域の時数確保にもつながる有意義な取り組みとなった。 ・2、4、5年生で外部講師指導による水泳教室を実施した。学年に応じた指導で児童は水泳の楽しさを味わい、教員の指導に生かすことができた。5、6年生は消防署職員による着衣泳体験を行い、水の活動における安全な知識技能を学んだ。	
	・委員会活動など児童生徒が主体的に考えた企画を通して、児童生徒の運動機会を増やしたりよりよい生活習慣を目指す。 ・K's体操クラブの方やダンス講師など様々な分野の専門の先生をお招きして、健康や運動への職員の理解を深め、運動の楽しさに触れる授業が充実するようにする。		
特色づくり	9年間の学びの中でグローバル社会を見据えた教育を推進する	【みらい探究科】 1学期は各学年の探究課題に沿って、体験活動や聞き取り調査をしたり、外部人材の活用により学びを深めたりして、それぞれの課題に向かって活動した。2学期は1学期の活動を踏まえて生まれた新たな課題について探究を進める。また、発表の機会を設定し、必要な技能や表現力を身につけさせる。 【英語教育】 今年度も授業は全学年ALL Englishで行っている。ALTや外部人材との交流を授業に取り入れ、児童・生徒が学習した知識を用いて自分の思いなどを発表する場面を設けることができた。低学年児童においても課外に進んで英語で挨拶をしたり、ALTの先生に話しかけたりするなど、日常的にコミュニケーションを図ろうとしている姿が見られた。	
	【みらい探究科】 ・各学年でのみらい探究科の学習の成果を、校内外に発信する。その際ステージⅡ以上の学年では英語で発表できるように取り組む。 【英語教育】 ・1・2年生のglobal timeから9年生の英語学習まで、全ての学年にALTが参加し、本物の英語に触れる機会を設け、進んで英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を育む。		

学校関係者評価	
---------	--